

U.S. Indicators

米国 良好な経済環境を背景に小売堅調(17年12月小売売上高)

公表日：2018年1月12日(金)

～コア小売の拡大モメンタムはより強く～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高		耐久財関連 (*1)					非耐久財関連 (*2)		
			除く車	自動車	家具	家電	衣料品	ガソリン		
16/12	+0.9	(+3.8)	+0.3	+2.3	+3.3	▲1.5	+0.1	+0.6	+0.8	+3.2
17/01	+0.8	(+5.6)	+1.4	▲0.4	▲1.4	+2.3	+1.7	+1.2	+0.6	+3.0
17/02	▲0.2	(+4.7)	+0.1	▲0.5	▲1.5	+0.4	▲1.3	▲0.1	▲2.6	▲0.0
17/03	+0.1	(+4.8)	+0.3	▲0.5	▲0.5	+1.7	+2.8	+0.4	+2.0	▲1.0
17/04	+0.3	(+4.5)	+0.3	+0.4	+0.5	▲0.5	+1.8	+0.4	+0.2	▲0.5
17/05	+0.0	(+4.2)	▲0.2	+0.7	+1.1	+1.0	▲1.5	▲0.4	▲0.0	▲3.1
17/06	▲0.1	(+3.0)	▲0.2	+0.4	+0.4	+0.5	▲1.2	▲0.4	+0.7	▲1.4
17/07	+0.5	(+3.7)	+0.5	+0.4	+0.3	▲0.5	▲1.6	+0.6	+0.3	▲0.5
17/08	▲0.1	(+3.5)	+0.5	▲1.2	▲2.0	+0.5	+0.7	+0.5	▲0.4	+3.4
17/09	+2.0	(+5.0)	+1.3	+4.0	+4.8	+0.9	+1.4	+1.4	+0.5	+6.0
17/10	+0.7	(+5.0)	+0.5	+1.1	+1.4	+2.0	+1.4	+0.5	+0.9	+0.2
17/11	+0.9	(+6.0)	+1.3	▲0.4	▲1.0	+0.5	+2.4	+1.6	+0.6	+3.0
17/12	+0.4	(+5.4)	+0.4	+0.4	+0.2	+0.6	▲0.2	+0.2	▲0.3	+0.0

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

12月の小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.4%に減速も4ヵ月連続で拡大

17年12月の小売・飲食サービス売上高(速報値、季節調整値)は、前月比+0.4%(前月同+0.9%)と鈍化し、市場予想中央値の同+0.5%を下回ったが、10、11月合計で0.3%p上方改定されており、実態は市場予想よりも強い。3ヵ月連続での高い伸びの後にもかかわらず、全体で拡大を続けた。雇用・所得環境が良好なもと、資産効果、積極的な値引き販売等を背景に、小売売上高は堅調さを維持した。

内訳をみると、家電、衣料品、スポーツ用品・本・趣味用品、その他小売など年末商戦スタートの良好だった部門が減少に転じたほか、ガソリンスタンド、百貨店など一般小売が鈍化した。一方、自動車・同部品が増加に転じたうえ、家具、建設資材、食品・飲料、飲食店が加速した。また、通信販売は鈍化したものの比較的高い伸びを維持した。さらに、薬局は堅調な伸び伸びを続けた。

12月の小売・飲食サービス売上高では、通信販売が最大の押し上げ要因

12月の小売売上高の前月比(+0.35%)の寄与度をみると、マイナス寄与の業態は、その他小売りが▲0.07%、スポーツ用品・本・趣味用品が▲0.02%、衣料品が▲0.01%となった。一方、プラス寄与の業態では、通信販売が+0.14%と最大の押し上げ寄与となった。それ以外では、建設資材が+0.08%、飲食店が+0.08%、食品・飲料が+0.06%、自動車・同部品が+0.05%、薬局が+0.02%、百貨店を含む一般小売が+0.02%、家具が+0.01%と続いた。なお、ガソリンスタンド、家電は0.00%となった。

12月の自動車を除く小売売上高は前月比+0.4%と減速も強い内容

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.4%(前月同1.3%)と減速したが、市場予想中央値の同+0.3%を上回ったうえ、10、11月合計で0.4%p上方改定されており、市場予想を大幅に上回る強い内容となった。家具、建設

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

資材、食品・飲料、飲食店が加速した。また、通信販売は鈍化したものの比較的高い伸びを維持した。さらに、薬局は堅調な伸び伸びを続けた。

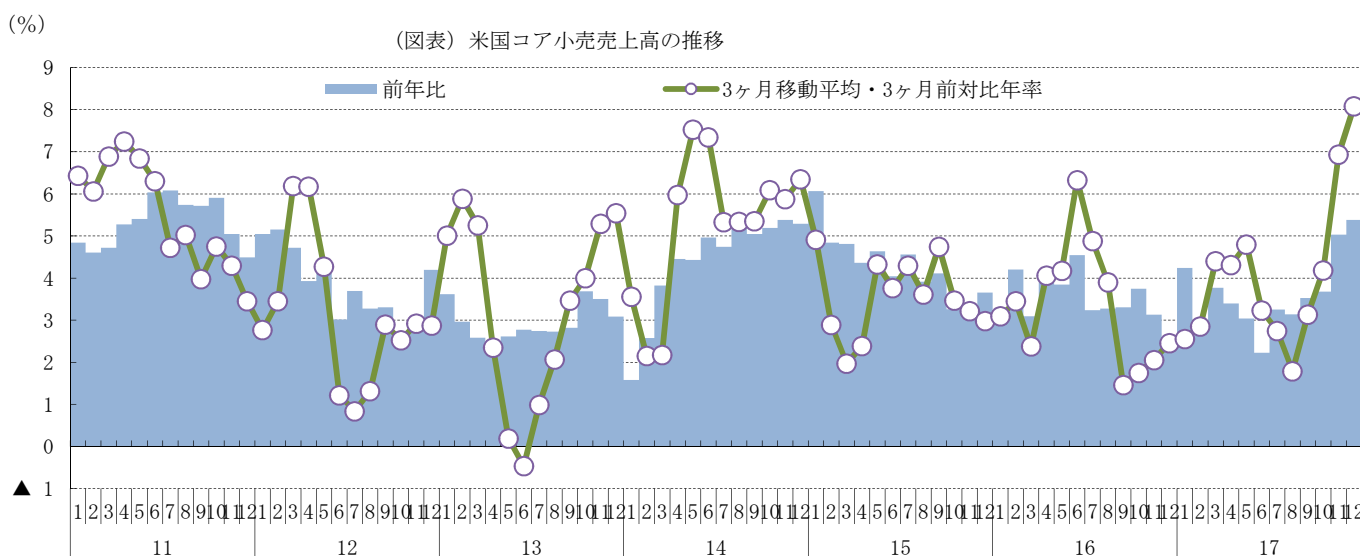
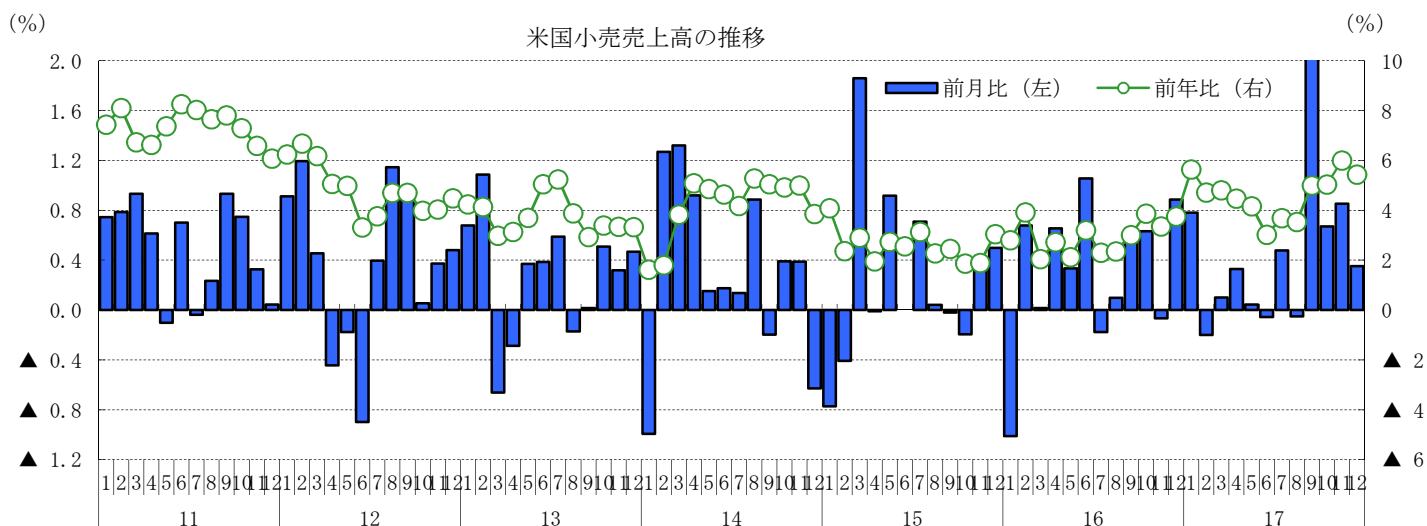
12月のコア小売売上高は前月比で+0.4%と減速も、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+8.1%と一段の強まり

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比+0.4%（前月同+1.2%）と減速したが比較的高い伸びを維持したうえで、10、11月合計で0.5%p上方改定された。家具、食品・飲料、飲食店が加速したほか、通信販売は鈍化したものの比較的高い伸びを維持した。また、薬局は堅調な伸び伸びを続けた。

3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+8.1%（前月+6.9%）と加速した。全米での雇用・所得の増加傾向、株等の資産価格の上昇、消費者マインドの安定など、消費を取り巻く環境は良好な状態を続けている。このような中、復旧・復興需要などもあり、小売の基調を示すコア小売売上高の拡大モメンタムは、一段と強まった。

10-12月期の実質個人消費は前期比年率+3%強に加速する見込み

四半期でみると、10-12月期のコア小売売上高は前期比年率+8.1%と7-9月期の同+3.1%から急加速していること等から、10-12月期の実質個人消費は前期比年率+3%強（7-9月期同+2.2%）に加速すると予想される。



(出所) 米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。